



発行所
 富山県南米協会
 〒930-0096
 富山市舟橋北町4-19
 電話 076-441-6148
 F A X 076-444-2179
 北陸銀行県庁内支店
 普通預金口座1098740
 郵便振替口座00760-8-5145
 No. 147

フランス じょうぞう か たてやままち にほんしゅ
仏ドン・ペリニオン醸造家が立山町で日本酒づくり

目指すはコメワインで世界展開
 美食のパリで、空前の日本酒 (SAKE) ブーム
 が起きている。人気の背景には、健康志向など時
 代に応じたフランス料理の新しい潮流がみられる。

世界有数のシャンパン製造会社のモエ・エ・シ
 ャンドン社で、有名ブランドのドン・ペリニオン
 最高醸造責任者 (シェフ・ド・カーヴ) を務めた
 リシャール・ジェフロワ (Richard Geoffroy) 氏
 が、立山町を生産拠点として日本酒の世界展開に
 乗り出す計画が明らかになった。

立山町東部の河岸段丘を含む中山間地にある白
 岩・芦見地区に酒米の栽培水田を設け、建築家の
 隈研吾氏が醸造所を設計し年内の着工を目指す。

ジェフロワ氏は、1954年仏シャンパニュのブド
 ウ園経営一家に生まれ、82年国立ワイン醸造学校
 入学、後にドン・ペリ最高醸造責任者となった。

欧州でも、現代の富裕層は、ダイエットや健康
 への志向が強く、味覚もこってりソースを離れ、
 油脂分が控えめの趣向になり、有機野菜や生魚、
 赤身肉など素材重視の創作料理に関心が深い。

食後のデザートも今では甘さ控えめが主流に。

さらに和食独特の「うまみ」が理解され、仏の
 有名シェフは、しょうゆ、昆布や鰹節、柚子など
 日本の伝統の食材を使うようになってきている。最後
 の盛り付けまで、イメージは日本の懐石料理に似
 て美しく皿に盛られる。

仏では、生かき料理に白ワインが定番とされて
 きたが、貝類はヨード香 (海藻や磯の香り) が強
 く、ミネラル分を含むワインでは強い個性が競合
 するのに対し、日本酒は溶けるように素材を包み
 込んで優しくマッチするとの評判である。

ジェフロワ氏は、日本のコメ文化とコメワイン

(日本酒) を高く評価し、その可能性を世界に展
 開するため、酒造りの適地を探していた。同氏は、
 世界のセレブや有名シェフとの親交も深く、国内
 外から多くの客を招くためには、北アルプス立山
 連峰を背景に棚田や段丘など心安らぐ日本の原風
 景が広がる白岩・芦見地区を選んだ。

立山町は、醸造所の隣接地に2018年度から19年
 度末までに日本酒の貯蔵施設や展示室を備えた
 「立山ブランド海外展開戦略拠点施設」を建設す
 る。この施設は、国の「生産性革命に資する地方
 創世拠点整備交付金」の対象事業に採択され、全
 体事業費約6億7千万円のうち3億円が立山町に
 交付される予定である。

南砺市でもワイナリーの構想

一方、南砺市において福光・城端地域にまたが
 る広大な丘陵地の立野ヶ原の休耕地に、ブドウ畑
 とワイナリーを整備し、南砺産のワインを生産す
 る計画も浮上している。この丘陵地は、水の便が
 悪いため開墾されても水田ではなく、畑作や果樹
 栽培が続けられてきた。明治期にはサツマイモ、
 その後は「越の白柿」で有名な干し柿用の三社柿
 やイチゴ畑として利用されてきた。近年、農家の
 高齢化等により休耕地が増えてきた。

この土地に高岡市の酒販店と南砺市の飲料メー
 カーの経営者らが、昨年11月に新会社「トレボ
 ー」を立ち上げワイナリー構想の実現に着手した。
 複数の地権者と約10ヘクタールの土地を賃借契
 約により確保し、来年5月までに2万5千本のブ
 ドウの苗木を植える。2020年9月に自社産のブド
 ウから醸造を行い、23年には年間10万本のワイン
 生産を目指す。

かけはし

がつごう
8月号

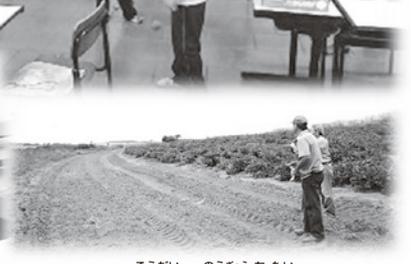
とやまけん はけんきょういん
富山県派遣教員

なかむらけん たろう
中村健太郎

第3アリアンサの風景

じゅぎょう あいま だま
授業の合間にけん玉

▼シュラスコの竹串づくり



▲まんじゅうづくり

▲広大な農業地帯

昼食会 (Almoço)

がつ か にち
8月5日(日)

近隣の街や村から、400人近くの人たちが集まりました。シュラスコ (churrasco) という日本でいうバーベキューをメインとして、たくさんの料理が振る舞われました。一昨日から準備が始まり、村の方たちと協力して運営しました。牛のと殺も見学させてもらい、日頃食べているものに命をいただく意味



を考えさせられました。



日本語学校 授業スタート

がつ か げつ
8月6日(月)

日本語学校での授業がスタートしました。昼間と夜間の2部制に分かれ、月曜～土曜日に行っています。開校当時は40名以上の生徒がいたそうですが、現在は総勢15名の生徒が在籍しています。

昼間は主に子供たちが、夜間は大人が中心です。家族の勧めや日本への渡航のため、或いは、日本のアニメが好きなど、様々なきっかけで日本語の勉強をしています。

文字を覚えることは大変なので、パズルやカルタを使ってゲームの要素を入れながら、少しでも楽しい授業になるように取り組んでいます。

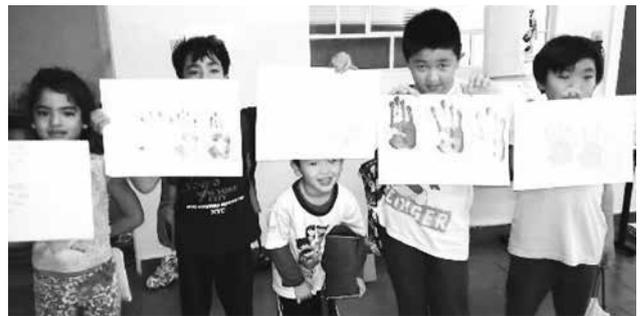


父の日&歓迎会 8月11日(土)

日本とは違い、父の日 (Feliz Dia dos Pais) が8月の第2日曜日です。そして、日本では「ありがとう」を伝えることが多いですが、ブラジルでは「おめでとう」と伝えます。また、こちらでは、村のみなさんが集まり、大勢でお祝いをします。日本語学校の子供たちは、お父さんにプレゼントを渡し、日本語でお父さんの紹介をしました。

写真はお父さんへのプレゼント作成の様子です。

父の日に合わせて、派遣教員の歓迎会を開いていただきました。ブラジルの料理だけではなく、いなり寿司や漬物等、日本食もいただきました。



日本祭り で 日本食500品目ギネス記録ならず

第21回日本祭りは、ブラジル日本都道府県人会連合会(略称「県連」)の主催で、サンパウロにおいて7月20日(金)から22日(日)まで、期間中にブラジル移住110周年記念式典と併せて開催された。日本祭りの実行委員長を務める市川利雄富山県人会会長は、来賓の秋篠宮家の長女眞子様らを案内し、説明する大任を果たした。同会場では、今回、日本国外で最も多品目の日本食が集まる催しとして、ギネス世界記録の500品目に挑戦した。

全国47県人会对し、各10品目を超える独自の郷土料理の出品協力を要請。

前日までの準備は623食、しかし展示スペースの制限で当日609食を出品、そして事前審査で残ったのは543食、うち食材不足等を指摘され取立て並べなかった33食を除き、最終審査で510食の品目を展示した。

しかし、審査基準の曖昧さやギネス審査員の日本食に対する理解不足も災いして、当日認定されたのは497食だった。県連の要請による再審査が行われたが、追加認定は1品目に留まった。中で

も沖縄が準備した20食のうち、可能性の高い6食が直前に削減されていたのが心残りとなった。

最終的に、審査から約一か月、2度の再審査の末、日本食500品目までは2品目が届かず、その結果、惜しくもギネス記録に認定されなかった。

市川実行委員長は、「47都道府県人会が全て参加」し、「式典、祭り、ギネスの3つに挑戦」し、「ここまでやれたことは大きな誇りだ」と述べた。

また、各県人会のほか、若手が中心の日本元研修生留学生協会(ASEBEX)やブラジル日本青年会議所(JCI)も加わり、600人以上が参加協力したことを評価し、県連として若者の新しい活動を後押しする役割に大きな収穫と手応えを得た。



リオのブラジル国立博物館がほぼ全焼

南北アメリカ大陸で最大級の人類学や自然史に関する文物を所蔵していたブラジルのリオデジャネイロにある国立博物館が、9月2日に発生した火災により、2千万点にのぼる所蔵品の殆どを焼失し、国民に悲しみと騒ぎが広がっている。

この建物は、19世紀初頭にポルトガル王家が仏ナポレオンの侵略で1808年リオに遷都し、宮殿とした。その後、1818年に王家の収集品を科学的研究に提供するため、国立博物館となった。

同博物館には、南米大陸で発掘された最古の女性「ルチア」の頭蓋骨（1万2千年前）をはじめ、貴重な先住民に関する工芸品、民俗資料、コロンブスの米大陸発見前の品物、16世紀のポルトガル人到着から共和国成立までの歴史資料等が多数、収蔵されていた。

建物は、リオデジャネイロ連邦大学が管理していたが、2016年のリオ五輪以降、予算が削られ、同大学を含む国立大学は資金難に直面していた。博物館にスプリンクラーの装置が無かったことが、被害を大きくした要因とされる。

6月に承認された予算530万ドル（約7億円）の近代化計画で、最新式の防火設備が導入されるはずだったが、実施は10月の大統領選挙の後とされていた。

現地ニッケイ新聞によると、テメル大統領は「全ブラジル国民にとって悲しい日」、「200年にわたる努力と研究、知識が失われた」と述べ、サ・レイタオ文化相は「避けられた悲劇だった」と話した。

デュアルテ副館長は、政府当局の認識不足を批判し、「我々は数年前、複数の政権を相手に、今日、破壊されたもの全てを正しく保管するための資金を得ようと戦った」、「(しかし)一度たりとも満足な支援を得られたことがない」と憤慨した。博物館で働いてきた研究者や職員は、これまでの業績の記録の全てを失い、研究の基礎が崩壊したと悲嘆に暮れている。

翌3日朝には、博物館前で多数の民衆がデモに集まり、参加者は「予算削減が火災につながった」と抗議した。

笹島入善町長が無投票再選

任期満了に伴う入善町長選が8月7日告示され、現職の笹島春人氏（69歳）=無所属、1期、同町笹原=の他に立候補の届出がなく、無投票で再選が決まった。

笹島氏は、町職員から町議を経て、2014年の町長選で初当選し、「ストップ人口減少」を最重要課題に掲げ、健康寿命を延ばす減塩プロジェクトや移住定住促進事業などに取組んできた。また、小学校の大規模改造や統合保育所の新設など少子化に伴う保育・教育環境の充実に努めた。

再選後の2期目では、現役場庁舎（1971年完成）の耐震補強や建て替えを含めた方向性を早急に打ち出すことが最優先である。また、「もっといい街 住みよい入善」の実現を目指し、災害時情報発信の拠点となる役場庁舎とあわせ、被災者支援や避難所の役割を担う中央公園の整備方針を示す。今後、町内10地区の「まちづくり懇談会」をはじめ、住民と当局が町政の課題について話し合う機会に意思疎通を図る。

人口と地域の活力を維持するため、出生数の増加、自然減の抑制、社会増の実現の三つを柱に施策を続けてきた。保育料軽減で子育て世代を支援するほか結婚応援事業、Uターン促進など県外在住の町出身者にも働きかける。

産業振興と活性化に関しては、JR入善駅前など玄関口を含む市街地の一体的な整備を考える。

町は、黒部川扇状地にあり、水資源に恵まれ優良米が育つ水田が広がり、水とコメを生かしたパックご飯の製造、入善海洋深層水パークの牡蠣レストランなど、地域資源を活用した明るい話題が多い。

